

氏名	茂 見 潤
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3134号
学位授与の日付	平成9年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	The Relationship between Job Stress and Mental Health at Work (仕事での主観的職場のストレスと精神的健康の 間の関連について)
論文審査委員	教授 武田 和久 教授 黒田 重利 教授 庄盛 敏廉

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、ストレスの健康におよぼす影響が明らかになり、職場のストレスの精神的健康におよぼす影響に関心が向けられるようになってきた。著者たちはこうした動向をふまえ、職場のストレスと精神的健康の関連を評価する目的で、属性、主観的職場のストレス及び精神的健康に関する質問票を用いて横断的研究を行った。質問票はゴールドバーグによって開発された30項目精神健康調査票(GHQ)日本語版、主観的職場のストレスについての質問よりなっており、それぞれ精神的健康状態及び職場のストレス状態を測定する目的で行った。対象者はある日本の電気会社の雇用者であった。782名の労働者のうち763名のから十分な回答を得た。(回答率97.6%) GHQ得点が7点より大きい者は精神的健康にありと分類され、それ以外の回答者は精神的健康に問題はないと考えられた。著者たちは主観的職場のストレスと精神的健康の間の関連を定量的に推定するために、性、年齢、家庭でのストレス及び生理的健康状態で調整した多重ロジスティック解析を用いた。主観的職場のストレスは有意に精神的健康状態と関係していた。とりわけ、「仕事のトラブルが多い」、「責任をもつ範囲が大きい」、「ミスが許されない」、「上司との関係が悪い」、「技術進歩についてゆけない」という項目は、有意に精神的健康と関連していた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、主観的職場のストレスと労働者の精神的健康の間の関連を定量的に検討したもので、職場でのストレスの定量的評価に家庭でのストレスは相乗的な交互作用を及ぼしていないことを明らかにしたものであると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。